

2021 年度

講義科目名称： 日本語学概論A

授業コード： 24023

英文科目名称： ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	講義	2単位	
曜日時限			
前期： 火曜4限			
配当学科・学年			
教育1(64)、教育1(65)、教育1(66)			
担当教員			
山口 響史			
添付ファイル			

授業テーマ	日本語の音や文法、語彙の特徴についての知識を習得し、理解を深める。
講義概要	日本語学の基礎的な知識を学ぶ。具体的には、現代日本語の音声、文法、語彙を学び、それぞれの特徴について理解を深める。身近な例や既習の知識についてはグループ等でディスカッションし、随時発表する。
到達目標	① 現代日本語の「音声・音韻」の諸特徴について理解し説明できる。 ② 現代日本語の「文法」の諸特徴について理解し説明できる。 ③ 日本語の語彙の特徴について理解し説明できる。
評価方法	課題・レポート・小テスト (50%) 定期試験の結果 (50%)
フィードバックの方法	・小テストは採点后返却して解説する。 ・受講者が毎回記入するコメントカードを通して、疑問に答える。必要に応じて受講者全員にも説明する。
評価基準	(最低限の到達度) (可) ① 現代日本語の「音声・音韻」の諸特徴について6割ほど理解し、課題を提出している。 ② 現代日本語の「文法」の諸特徴について6割方理解し、課題を提出している。 ③ 日本語の語彙の特徴について6割方理解し、課題を提出している。 (最も望ましい到達度) (秀) ① 現代日本語の「音声・音韻」の諸特徴について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ② 現代日本語の「文法」の諸特徴について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ③ 日本語の語彙の特徴について理解し9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。
テキスト	特に指定しない。
参考書	衣畑智秀編『基礎日本語学』ひつじ書房 工藤浩ほか『日本語要説』ひつじ書房 その他、必要に応じて紹介する。
履修上の注意	・配布資料はあくまでも補助的なものである。板書やスライド、説明はノートに記録すること。 ・授業へはただ参加するのではなく参画するようにすること（グループワークの際には、周囲の人と協力すること等）。 ・毎回提出するコメントカードには、質問・授業の要約・感想などを丁寧に書くこと。
準備学習＜予習・復習の時間・内容＞	2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間（4時間×15回）の事前事後学修が必要です。それぞれ30時間の事前学習（予習）と事後学習（復習）を目安に学習に取り組んで下さい。 予習 ・提出された事前課題に取り組む。 ・レポート課題について調査する。 復習 ・講義後に配布プリントやノートを見てよく復習し、小テストの準備をする。
オフィスアワー等	質問は、毎回提出するコメントカードへの記入および講義終了時、あるいは火曜2限に受付ける。
備考・メッセージ	課題等は遅れても提出すること。
ディプロマポリシー	学教：DP2、特支：DP2
科目ナンバリング	学教：ED-E-EA1033-A34、特支：ED-E-EA1033-A34

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
1	講義	山口響史	オリエンテーションー日本語を対象とする研究にはどのようなものがあるかー	講義の概要、評価方法などについて知る。 日本語学とはどのような学問であるのかを理解する。		

2	講義	山口響史	音声・音韻① 音声器官と発音の仕組み	音声器官と調音について理解する。		
				日本語の発音の仕組みを理解する。		
3	講義	山口響史	音声・音韻② 母音と子音	母音と子音の違いを理解する。		
				日本語の母音と子音の特徴を理解する。		
4	講義	山口響史	音声・音韻③ 音声と音韻、音節とモーラ	音声と音韻の違いを理解する。		
				音節とモーラの違いを理解する。		
5	講義	山口響史	音声・音韻④ アクセントとイントネーション	アクセントの働きについて理解する。		
				イントネーションの働きについて理解する。		
6	講義	山口響史	文法① 品詞・活用	現代日本語の品詞について理解する。		
				活用の型、活用形の名前について理解する。		
7	講義	山口響史	文法② テンス・アスペクト i	現代日本語のテンスの種類について理解する。		
				テンスとアスペクトの違いについて理解する。		
8	講義	山口響史	文法③ テンス・アスペクト ii	現代日本語のアスペクトの種類について理解する。		
				アスペクトの方言差について理解する。		
9	講義	山口響史	文法④ ヴォイス	現代日本語の受身表現の特徴について理解する。		
				現代日本語の可能表現の特徴について理解する。		
10	講義	山口響史	文法⑤ モダリティ	現代日本語のモダリティの特徴について理解する。		
11	講義	山口響史	文法⑥ 敬語	現代日本語の敬語について理解する。		
12	講義	山口響史	文法⑦ とりたて	現代日本語のとりたてについて理解する。		
13	講義	山口響史	語彙① 語彙体系、語構成	語彙の体系的な把握について理解する。		
				語構成について理解する。		
14	講義	山口響史	語彙② 和語・漢語・外来語、位相差・役割語	和語、漢語、外来語の区別について理解する。		
				位相差、役割語について理解する。		
15	講義	山口響史	語彙③ 語彙の変遷	語彙の変遷から語彙と社会とのかかわりについて理解する。		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	講義	教室	1	資料を配付し、適宜パワーポイントを使用する。	90分×15